

獣医公衆衛生

島根県内養豚場の *Actinobacillus pleuropneumoniae* 血清型別浸潤状況

○安達俊輔¹⁾ 三田哲朗²⁾ 川瀬遵²⁾

1) 島根県食肉衛生検査所 2) 島根県保健環境科学研究所

- はじめに:** *Actinobacillus pleuropneumoniae* (以下「App」とする)は豚胸膜肺炎の起因菌であり、15の血清型に分類される。また、Appのワクチンの効果は血清型特異的である。近年、島根県のと畜場に搬入している複数の農場の豚で豚胸膜肺炎の病変が多く認められているが、Appの浸潤状況の調査は十分に行われていない。そこで、Appの分離同定とその血清型の特定を試み、島根県内のAppの浸潤状況の調査を行った。
- 材料と方法:** 豚胸膜肺炎が発生している県内の4農場を調査対象とし、豚胸膜肺炎の病変のあった214頭(A農場:63頭、B農場:78頭、C農場:71頭、D農場:2頭)の肺病変部とA~D農場の豚胸膜肺炎の病変が認められなかった豚それぞれ10頭ずつ、計40頭の肺を試験に供した。採材した肺内部組織をチョコレート寒天培地に塗布し分離培養した後、生化学性状検査と種特異的な外膜リポ蛋白質遺伝子(*OmlA*)を標的としたPCRによりAppと同定した。分離されたAppの血清型を特定するため、国内で主に流行している血清型1、2、5型の莢膜合成遺伝子(*cps*)を標的としたマルチプレックスPCRを行った。血清型別不能のAppについては、農研機構動物衛生研究部門に血清型別検査を依頼し、追加試験として、血清型8を標的としたPCRを行った。
- 成績:** 豚胸膜肺炎と診断された豚214頭のうち100頭からAppが分離された。分離率はA農場66.7%(42/63)、B農場71.8%(56/78)、C農場0%(0/71)、D農場100%(2/2)であった。また、豚胸膜肺炎の病変が認められなかった豚40頭すべてAppは分離されなかった。豚100頭から分離されたApp100株の血清型別試験を行った結果、A農場の分離株42株のうち20株は血清型5、22株は血清型8と判定された。B農場の分離株56株すべてが血清型2と判定された。D農場の分離株2株すべてが血清型8と判定された。
- 考察:** 今回調査した4農場ではApp血清型2、5及び8が浸潤している事が判明した。App血清型8は有効なワクチンが無く、全国の分離報告例が少ない血清型である。しかし、島根県では2か所の農場から分離され、また、A農場で分離されたAppのうち半数以上が血清型8であった。そのため、島根県内の他の農場でもApp血清型8が生息している可能性が考えられた。従って、今回調査を行わなかった島根県内の農場でもAppの浸潤状況や血清型の調査が必要と考える。今後、今回の結果を生産者へ還元するとともに、他部局と連携し農場の清浄化と蔓延防止に寄与したい。